

令和7年度 第1回 埼玉県生涯学習審議会 会議録

1 日 時 令和8年1月22日（木）15：00～16：45

2 会 場 オンライン開催（Microsoft Teams）

3 出席した委員（12人）

大石 克紀委員、久保木則子委員、新保 正俊委員、鈴木 美幸委員、
谷野 裕子委員、羽生田奈々絵委員、二葉 薫委員、前川 康恵委員、
山口 純子委員、森 玲奈委員、山崎 雄一委員、山本 和人委員

4 欠席した委員（7人）

岡野 啓子委員、小船 隆一委員、菅野 雅亨委員、関根 公一委員、
高橋 稔裕委員、土澤 貴弘委員、春山 綾子委員、

5 会長及び副会長の選任

会長は山本和人委員、副会長は高橋稔裕委員が選任された。

6 議事の経過

（1）会長の開会宣言

（2）会議の公開・非公開

会長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。

傍聴者なし

（3）会議録署名委員の指名

会長から久保木則子委員と新保正俊委員が指名された。

（4）議題及び経過

ア 議題

○ 検討テーマについて

「誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現に向けて」

イ 経過

(議題) 審議テーマ及び設定理由について、事務局より説明
「誰もが学び続けられる生涯学習社会の実現に向けて」

- 議長 審議テーマ案と主要な論点（誰が学べていないのか、なぜか、どうすれば学びに参加・継続できるのか、誰が支えるか、どこから始めるか）について。全体のテーマについて現状で異論がなければ、このテーマで進めたいかがか。異論なしのため、このテーマで進める。
- 生涯学習社会はいつでも誰でも、どこでもといったキャッチフレーズもあるが、本当に誰でもなのか、学びたい人が学べる状態になっているかというところで御意見いただきたい。
- 久保木委員 学び続けられていない人として、高校や短大を中退した若者を知っている。いじめなどが原因で心を病んだりして、なんとか回復して学び直そうと頑張っているケースがある。彼らを支える周りの存在が重要。また、自身と同じような中高年世代でも、いつからでも、学びたいと思った時が学ぶ時という考え方で支援できると良い。
- 事務局 「誰もが」という視点に加え、「いつからでも（思い立った時が学ぶ時）」というタイミングの視点も示された。この視点も共通視点の補足・調整に役立つと考える。
- 議長 音声鮮明でないため、委員の発言が聞き取れないところがある。事務局に進行補佐を依頼する。
- 事務局 誰もが学び続けるために、誰がなぜ学び続けられないか、それはなぜかなどを中心に、委員の御経験も踏まえて御意見をつないでいただきたい。
- 新保委員 一般的な生涯学習のイメージは定年後の教養や趣味の学びだが、「学び続けられていない人」は、やはり子育て世代や働き世代であろう。彼らは常に課題意識を持って生活・仕事しているため、自分なりの学びはしているかもしれない。高齢者については、交流が持てない方と意欲的に学ぶ方の二極化が見られる。高齢者が学び続けられない理由としては、仲間づくりやコミュニティへの参加が途絶えてしまうことが考えられる。

谷野委員

子育て世代は忙しいのは仕方ないが、子育てを通して学びを得ている側面もある。「いつでも、誰でも、どこでも」という生涯学習の理念は、常に同じ太さで学び続けることではない。余裕のない状況を憂いても仕方がない。子育てや介護など状況に応じて学習量が少なくなる時期もあるが、長い人生の中で捉えれば焦る必要はない。自分の経験として介護をしていた時期は、読書などで学習を継続した。介護世代も親の介護で多忙になり、周りと比較してしまうかもしれないが、焦る必要はない。

また、交通不便地では、車に乗れなくなると公民館などに出てこれなくなる高齢者がいる。福祉課との連携も必要。民生委員として地域を回ると、ふれあいサロンなどでも出てくる人と出てこない人がおり、これは難しい問題。身体の不自由な方や障害を持つ方の学びも考慮すべき。

山口委員

子育て世代やシニア世代は、忙しさやコミュニティの不足から孤立しがち。学びが勉強だけでなく、楽しむ場にもつながっていくとよいと考える。自身の子ども食堂の活動では、ボランティア（学生やシニア）が参加しているが、学習というより、その場を楽しむことを通して生涯学習につながっていると感じる。

事務局

国の中央教育審議会資料にも「楽しく」学びという言葉がある。同じ太さでなくても焦らず学び続けること、参加している「場を楽しむ」ことに焦点を当てることも、学びを継続する上で大切だと考える。

森委員

高齢者が学び続けられない障壁として、デジタルデバイドの問題がある。高齢者は学習機会へのアクセスが難しく、そもそもインターネットを使った学びについていけない人がいる。マイナンバーカードやキャッシュレス決済など、テクノロジーの進化に生活が満ちていく中で、それに高齢者が対応できないことへのサポートが必要。県の生涯学習推進指針の取組状況調査でもデジタルに関する学習機会が少ないという統計が出ている。視力や身体的な問題もある中で、学習機会が減り、孤立が進むと考える。

事務局

一つの対象について細かく見ると様々な障壁がある。全てに個別に対応するのは難しいが、広く意見を募り、最終的にはそれらを包含する形で共通の視点を示したい。共通の視点についても御意見はあるか。

森委員

共通の視点として、ICTの活用は重要である。時間がない人や移動がで

きない人のためにも、ICT活用を考えるべき。アクセスが難しい人にはさらなる支援が必要となる。

山崎委員

学びが届いていない人として、不登校など学校教育で失敗体験を持つ人がいる。彼らは生涯学習の場に出ていきにくい可能性がある。また、情報が行き届いていない人も多数いるはずで、より広報を強化すべき。学ぶ場を知らない、情報が未達という状況が多いだろう。

学校教育での失敗経験が、その後の学びへのネガティブな感情やコミュニティへの参加への苦手意識につながる可能性もある。不登校経験者や不登校児童・生徒への学校以外の学びの場提供も必要かもしれない。情報が行き届いていない人については、年代を問わず、生涯学習自体を知らない、公民館の講座を知らないといった人が多い。

二葉委員

具体的な対象は他の委員と同じだが、生涯学習を学びだけでなく、地域社会や人同士の心のつながりを作る場と捉えれば、より多くの人を対象となる。子どもも勉強以外の体験が足りない可能性があり、介護されている方、障害を持つ方など、みんなが一緒に何かできるようなつながりがあれば、それを生涯学習と呼んで、もっと楽しく、みんなが対象になるのではないか。

事務局

生涯学習の価値の捉え直しも重要だと理解した。知識を得るだけでなく、心のつながりを作る、勉強以外の体験も含めて、楽しさや共に取り組めることを学びの価値と捉えることが、誰もが学び続けることにつながる可能性がある。

新保委員

生涯学習の捉え直しという意見に感銘を受けた。自治会長と接する機会があるが、地域の人々と触れ合い、活動する中で多くの学びを得ていることに喜びを感じている方が大変多い。生涯学習は公民館や図書館で学ぶことが中心と捉える方も多いかもしれないが、人と触れ合い、コミュニティを形成し活動することから喜びを得ることも十分に生涯学習である。

鈴木委員

学校ではICTを使った学習が非常に加速化している。本校でもPCなしに授業することはもはや考えられないくらい子供たちに浸透している。保護者にも通知はメール配信やホームページ掲載など、紙からデジタルに変わっている。そうした中で、デジタル社会に対応できる人づくりという学び

が少ないと、学ぶ世代で社会に隔たりができないか心配している。

わざわざ公民館に出向く、何かの集まりに参加するといのは難しいという方も多い。何かの時に、プラスして学べる機会というものがあればありがたい。学校への地域の協力が豊かな地域に住んでいるが、地域の方が学校に来る中でコミュニティが出来上がっている。それを学びとしてとらえると学校と社会がウィンウィンの関係になる。

久保木委員

先ほどから、人と人のつながりということの大切さがでてきている。協力しあいながら関係を作っていくという場があると、協調性が培われる。単に学ぶだけでなく、人と共感しあいながら、という部分もこれからは大事になる。

新保委員

鈴木委員が挙げた「プラスして学べる」という点に関連し、川越市を含む県内の学校では「ふるさと学習」に力を入れている。地域の歴史や文化、課題を知る学びを通して、地域貢献への意識を育み、生涯にわたる探究的な学びにつながるものである。

不登校の児童・生徒については、様々な事情があるが、学びに対する意欲は持っている。一斉授業ではなく、校内支援室などを通して、自分で学び続ける気持ちを育む取り組みを行っている。

羽生田委員

子育て中は学ぼうという気持ちすら起きず、心の余裕がない時期もあった。しかし、人とのつながりの中で得られるものは多く、後からそれが学びだったと気づくことがある。図書館の利用者では、特に高齢者が趣味の範囲で読書や新聞、雑誌を読んでいる姿が多く見られる。これを学びと捉えるか、趣味の時間を楽しんでいると捉えるかは、人によって異なるだろう。

森 玲奈

「趣味による学び」は学習科学のジャンルにあり、ブラスバンド活動やサーフィンなど、趣味を通して仲間と教え合い、学びを得る研究は多数存在する。図書館で好きな本を読むことも、本人の認識が趣味であっても、研究分野としては生涯学習の一環として「学び」と捉えられる。

谷野委員

委員の意見を聞いて、「学び」という言葉一つでは括れない多様な形があると感じた。音楽やスポーツなど様々なジャンルからの学びがある。新聞を読むことの情報収集か趣味かという点もそうだが、学びは情報を受け

取るだけでなく、発信もできるような形になると非常に良い。

議長

時間となったため、委員の御協力に感謝し、ここで議事を終了する。